

中央大学ボランティアセンター2015年度 年間スケジュール表

通年 ●多摩地域ボランティア『学生教育ボランティア』…多摩地域の小中学校

4月 ●学内ボランティア『献血』…多摩キャンパス中央ステージ
 中旬 ●学内イベント『被災地支援学生団体ネットワーク活動説明会』…多摩キャンパス
 20~24日 ●スキルアップ『AED講習会』…多摩キャンパス中央ステージ

5月 ●学内ボランティア『献血』…多摩キャンパス中央ステージ、後楽園キャンパス
 9,10日 ●多摩地域ボランティア『伝統の祭り「ひの新選組まつり」ボランティア』…日野市、高幡不動尊周辺
 下旬 ●東北ボランティア『新入生対象・被災地スタディツアー』…宮城県女川町

6月 ●学内ボランティア『献血』…多摩キャンパス中央ステージ
 14日 ●多摩地域ボランティア『子どもと遊ぶ「みんなの遊・友ランド」ボランティア』…日野市
 中旬 ●ボランティアイベント『中央大学ボランティアセンターシンポジウム』
 …多摩キャンパスCスクエア中ホール
 ●スキルアップ『防災講座』…多摩キャンパス
 ●スキルアップ『ボランティア入門講座』…多摩キャンパス
 下旬 ●学内ボランティア『クリーン作戦(ゴミ拾いボランティア)』…多摩キャンパス周辺

7月 6,7,9日 ●スキルアップ『オリエンテーション ボランティア講座』…後楽園キャンパス
 中旬 ●学内イベント『被災地支援学生団体ネットワーク決起会』…多摩キャンパス

8月 上旬 ●スキルアップ『災害救援ボランティア講座』…Cスクエア、立川防災館

8月 9月 ●東北ボランティア『夏季ボランティア』…岩手県宮古市、宮城県気仙沼市、女川町等

10月 ●学内ボランティア『献血』…多摩キャンパス中央ステージ、後楽園キャンパス
 5,6,7日 ●スキルアップ『オリエンテーション ボランティア入門講座』…後楽園キャンパス
 上旬 ●多摩地域ボランティア『障害者運動会「みんなといっしょの運動会」ボランティア』
 …多摩キャンパス体育館
 中旬 ●多摩地域ボランティア『まちづくりイベント「ひの市民活動フェア」ボランティア』
 …日野市市民の森ふれあいホール
 20~27日 ●学内イベント『ボランティア写真展・夏ボラ報告会』…多摩キャンパス中央図書館1階

10月 11月 29~1日 ●学内イベント『白門祭』…多摩キャンパス

11月 ●学内ボランティア『献血』…多摩キャンパス中央ステージ
 上旬 ●学内イベント『父母懇談会でのボランティア活動報告』…多摩キャンパス
 下旬 ●学内ボランティア『クリーン作戦(ゴミ拾いボランティア)』…多摩キャンパス周辺

2月 3月 ●東北ボランティア『春季ボランティア』…岩手県宮古市、宮城県気仙沼市、女川町等

※ボランティア情報は、公式Webページ、C plus、掲示板、メーリングリスト、Facebook、Twitter等でお知らせします。
 ※なお、企画実施の有無を含め、日程は変更となる場合があります。



2015



中央大学ボランティアセンター

被災地支援学生団体ネットワーク 紹介冊子

- はまぎくのつぼみ ●はまらいんや ●面瀬学習支援 ●チーム女川
- クリーン作戦・地域ボランティア紹介 ●年間スケジュール

発行者/中央大学ボランティアセンター 発行日/2015年4月1日

ボランティアセンターの紹介

専門のコーディネーターが常駐する「中央大学ボランティアセンター」(6号館地下1階学生課内)では、ボランティアをしたい学生のサポートをします。東日本大震災被災地支援を継続していくとともに、今回の経験を次に生かす災害リーダーの育成や、大学近隣のボランティア活動など、より多くの学生がボランティア活動を通じて多様な社会と向き合うことを支援していきます。

ボランティア情報が欲しい方

ボランティアセンター窓口にご相談ください。また、センターから学内外のボランティア情報を発信しているボランティアメーリングリストへの登録も勧めています。

※そのほか、自分の特技を生かしたい、サークル活動の一環でボランティアを試みたい、ボランティア団体の運営に悩んでいる人は、センターへご連絡ください。

ボランティアメーリングリスト登録方法

学内外のボランティア情報をいち早くお届けします。

ボランティアセンターアドレス

chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp まで

①氏名 ②学籍番号 ③登録するアドレスをご連絡ください。

※登録するアドレスは、大学からのメール(~@tamajs.chuo-u.ac.jp)が必ず届くように設定してください。

問い合わせ先

中央大学ボランティアセンター

場所 多摩キャンパス6号館地下1階 学生課内

開室時間 平日9:00~17:00/土曜9:00~12:00

TEL.042-674-3487 FAX.042-674-3469

E-mail : chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

URL : http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/



学童で子どもたちと格闘!必死です(笑)



中大生協にて岩手復興支援物産展



骨組みがむき出しになった「たろう観光ホテル」



仮設住宅でみんな仲良く手芸♪

はまぎく魂は宮古と共に ~つながりの創造~

理念

私たち「はまぎくのつぼみ」は、岩手県宮古市で活動しています。「はまぎく」は宮古市の市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。過去にも数回津波の被害を経験した宮古市は、今回も屈することなく、復興を遂げようとしています。団体メンバーひとりひとりが「こんな宮古にしたい」という理想を掲げ、復興のお手伝いをしています。「つぼみ」は、団体メンバーや活動参加者ひとりひとりを表しています。私たち学生の主体的な活動を通して、いつの日か宮古に満開の花が咲くことを願っています。

私たちの活動は、それを受け入れて下さる現地の方々のご厚意があって、初めて成り立ちます。また、被災した方々にとって有益な活動を構築するためにも、現地の皆様や行政職員の皆様のヒアリングへのご協力は欠かせません。現地や大学で活動していくなかで、人とのつながりが創造されるとともに、私たちの活動が本当に多くの方々に支えられていることを実感いたします。そういった方々とのつながりを大切に、私たちは活動しています。

活動内容

私たちの活動内容は、主に4つあります。

- ① 仮設住宅支援…お菓子作りや手芸をしながら、ご年配の方々と交流します。
- ② 学童保育支援…子どもたちの学習支援とふれ合いをします。
- ③ 田老「学ぶ防災」…現地の方にガイドをしていただき、田老地区の防潮堤やまちづくり、津波被害の教訓について学びます。
- ④ 岩手復興支援物産展…岩手の特産品を大学の生協で販売して、経済的支援をしています。

代表学生より一言

宮古市では災害公営住宅の整備が進んでいることに伴い、今年は多くの方々が仮設住宅から災害公営住宅に転居されることが予想されます。したがって仮設住宅における活動も見直しを迫られることとなります。他の活動についても、今後の復興の進捗状況に合わせた工夫・改善が必要とされます。そのためにも、ヒアリングや自主的な勉強が大切になります。

私たちの団体では、メンバー全員が他のサークルなどと掛け持ちで活動しています。岩手や宮古が好きだ、復興に携わってみたい、東北のことを忘れられない、そのような気持ちがあれば十分です。ぜひ一緒に活動しましょう!!

■団体構成

メンバー数	6人/3年生2人、2年生4人
活動場所	岩手県宮古市、中央大学生協
活動時期	春、夏、冬の長期休暇
ミーティング	週1日

■団体連絡先

E-mail join.hamagiku@gmail.com
Twitter @chuomiyako

はまらいんや



残っている津波の被害



気仙沼で最大の仮設住宅



仮設の住民の方と将棋で交流



仮設集会所でのお茶会は賑やか

人の復興を目指す 「コミュニティ支援」

理念

- 震災をきっかけにさまざまな日本社会の問題が露呈しました。その問題は医療、福祉、居住環境まで多岐に渡りますが、被災者の方が必要とするものはそれぞれ違います。本当に人間らしく生きるためには何が必要でしょうか。
- 極寒の雨漏りする家で暮らせませんか？草が生えてくる家で安心して眠れますか？暮らしは肉体、精神ともに直接大きな影響を与えます。周囲に話せる相手がいなかったらどうしますか？重病の時に自分だけだったらどうしますか？
- 仮設住宅のような外部と孤立しがちな環境ではコミュニティの場が絶たれ、時に孤独死が発生します。コミュニティ作りとその維持が必要とされ、地域的な結びつきは自立の助けとなります。
- 私たちの活動と一緒に過ごした時間が少しでも住民の方の支えとなり、震災で傷を受けながらも前を向いて生活できるよう、以下を団体理念として掲げています。
- その「人」「地域」「暮らし」に焦点を当てた「人間主役のボランティア」であること、そして住民の方の「今日を生きる力になること」。「人」「地域」「暮らし」上記3点は、本当に人間らしく生きるために必要なことなのです。

活動内容

- 私たちは、宮城県気仙沼市の面瀬地区にある仮設住宅で「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」の方々のご指導の下、「コミュニティ支援」を行っています。
- 「コミュニティ支援」とは、仮設住宅に住む方々同士の新しいコミュニティを作り、維持できるようサポートする活動です。なぜ「コミュニティ支援」が必要なのか？1995年の阪神淡路大震災で「仮設住宅内の孤独死」が残念ながら発生してしまいました。抽選で決められた仮設住宅の地区では知り合いがいないという「コミュニティの崩壊」が原因の一つとして考えられます。「孤独死を防ぐ」ため、「その人らしく生活する」ために「コミュニティ支援」は必要なのです。
- 具体的にはお茶会の実施、集会所での住民の方との語り、仮設住宅への訪問を通し、その人がその人らしく「今日を生きる」ためにはどのように支援したらよいかを考えて活動しています。
- 住民の方との深い関わりの中で、その方の震災による悲しみや痛み、不安に寄り添い、再び元を取り戻していただけるような支援を目指し、活動しています。

団体構成

メンバー数	9人 [大学院生1人、4年生2人、3年生3人、2年生3人]
活動場所	宮城県気仙沼市面瀬中学校 仮設住宅
活動時期	春、夏、冬の長期休暇
ミーティング	週1日（不定期）

団体連絡先

E-mail hamarainya@gmail.com

代表学生より一言

- ボランティアは、有志です。「力になりたい。自分に何かできることはないか。」その気持ちが一番大切です。しかし、気持ちがあるだけではだめで、まずは相手のニーズを知るところから、ボランティアは始まります。その個人個人のニーズの裏には、被災された方々の心に負った深い痛みや不安があり、そして震災で頭になったにも関わらず見過ごされてきた社会の問題があります。ボランティアを通して生の社会に入り、現場で問題と向き合う。その「行き学び」は自らを大きく成長させ、大学の中にいるだけでは得られない、新たな価値観を育ててくれます。



子どもたちと一緒に楽しく学んでいます

面瀬学習支援



昔豆腐づくりに挑戦！



地域の達人を招いて「水鉄砲づくり」

共に学び、共に描く、 ふるさとの未来図

理念

- **学校とも家庭とも違う子どもたちのための場を開く**
子どもたちにとって私たち大学生は、教師とも家族、友達とも違う、気仙沼では普段かかわることのない存在です。そんな私たちの立場を生かし、震災を経験した子どもたちのくつろぎの場、学びの場、成長の場を創ることを目指します。
- **未来の面瀬・気仙沼の担い手として子どもたちを育成**
私たちが関わる子どもたちは、自分が育った地域を愛し、たとえそこを離れても震災を経験した地域を思って動きかけるような、面瀬・気仙沼の担い手となるような存在です。子どもたちが故郷で震災の悲しみを乗り越えるような楽しい思い出を作り、魅力を知り、考え、思いを持つお手伝いをします。
震災から4年が経ち、東北の状況は変わり、子どもたちの周りの環境や自身の様子も変化し、多様化しています。震災の捉え方も子どもによって変わってきています。それに伴い、私たちがすべきことも変わってゆきます。しかし、震災を経験した地域にとって、子どもたちが希望の存在であることは今までも、そしてこれからも変わりません。私たちは2つの理念をもとに、その時々子どもたちに合わせた活動を考え、行っていきます。



自治会館での宿題指導

活動内容

- 私たちは2つの理念をもとに、面瀬の小学生を対象に宿題指導と体験学習を行っています。宿題指導では長期休み中の学校の宿題と一緒に取り組みます。休憩時間には学年を越えみんなで思い切り遊び、時にはゆっくり話し、子どもたちとの交流を深めます。体験学習では気仙沼の大人たちを講師に招いて様々な視点から子どもたちが地域を学ぶ場をつくっています。過去には昔話の舞台をたどる「地域探検」、面瀬の竹を使った「水鉄砲づくり」、少し前の面瀬の家庭で作られていた「豆腐づくり教室」などを行いました。このような活動を通し、継続的に現地の子どもたちと関わっています。

団体構成

メンバー数	14人 [大学院生1人、4年生3人、3年生5人、2年生5人]
活動場所	宮城県気仙沼市面瀬地区
活動時期	長期休暇中に1週間程度、現地で活動。
ミーティング	週1～2日

団体連絡先

E-mail omore.chuo.v@gmail.com

代表学生より一言

- 私たちの団体の一番の特徴は、子どもを対象にしていることです。子どもたちの成長を見ることができると、「また来てね！」と言ってくれることが、私たちがよりよい活動を目指す一番のモチベーションになっています。また子どもたちを思って一緒に活動していくことが、団体の温かい雰囲気を作り出しています。継続的に気仙沼の復興と子どもたちの成長に寄り添い、一緒に子どもたちの将来、気仙沼の未来を考えていきます。

チーム女川



東京での物産展は現地の方と一緒に



ボランティアセンターで勉強会



津波で横倒しになったビル



白門祭でさんまのつみれ汁を販売



スタディーツアー当日の様子です

大好きな女川を伝えたい

理念

▶復興の歩みの一歩先を見つめ、女川の人たちの声に寄り添いともに歩む

私たち「チーム女川」が活動をするうえで大切にしていることは、女川町を実際に訪れ、町民の方のお話を伺うということです。現地の方々との対話の中からニーズを見つけ出し、意識することで町民の方々の手助けとなるような活動につなげていきます。また、私たちの活動は女川の現状や魅力を伝えることを主な目的としています。そのために実際に現地の方々とお話することから町についての理解を深め、より魅力的な女川を発信することにつなげています。

▶私たちが学んでいること、生活の場を基盤に、個性を活かした活動を行う

女川町での活動だけでなく東京でも活動を行い、女川の魅力を多くの人に発信しています。また、個々のメンバーが興味を持っていることや、大学の授業を通して得たことを活動の中で生かすことを心がけています。女川の方たちと関わる中でメンバーそれぞれの興味・関心・学びの分野の視点から女川町のニーズを踏まえて一人一人が活動の提案をして、団体全員で考えながら活動に取り組んでいます。

活動内容

主な活動は大学内で参加者を募り女川町を共に訪問し、町の現状を自分の目で見て、現地の方からお話を伺い、被災地、復興について考えてもらう「被災地スタディーツアー」を開催することや、「女川町観光協会」が東京のお祭りや物産展に出店される際のスタッフ活動、白門祭での女川の郷土料理の販売など女川の現状や魅力を伝える活動を行っています。その他にも現地でのヒアリング活動や講師をお招きしての勉強会を行い、個人の知識を深めたり成長を図ったり、より女川町の実情にそった活動が行えるように努めています。

■団体構成

メンバー数	9人	大学院生1人、4年生1人 3年生6人、2年生1人
活動場所	宮城県牡鹿郡女川町	
活動時期	春、夏の長期休暇	
ミーティング	週1日	

■団体連絡先

E-mail chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp
Facebook <https://www.facebook.com/teamonagawa>

代表学生より一言

私たちは大好きな女川町の現状や魅力を多くの人に知ってもらいたい、女川町を訪れてもらいたいと思い活動を続けてきました。震災が発生してから時間が経った今、被災地に関する報道は決して多いとは言えません。その中で震災を過去のことにしないため、日々着々と進んでいく復興の状況を知ってもらうために発信を続けていくことは重要となってきます。私たちはこれからも女川町とつながり続けていきます。

身近なところで気軽にボランティアはじめてみませんか？

ゴミ拾い活動 「中央大学クリーン作戦」の参加者を募集

大学構内や周辺のゴミ拾い活動「中央大学クリーン作戦」。「ゴミを拾うことで目に見えて地域が綺麗になっていく手応えが感じられる」「一緒にゴミを拾うことで仲間との達成感が味わえる」など、ゴミ拾いの楽しさが口コミで広がり、少しずつ仲間が増えていきます。

2014年からは明星大学生と協働で実施し、学年学部、大学を越えた学生との出逢いや地域の方と仲良くなれることも魅力です。

【実施予定日】年2回実施、不定期で昼休み(クリーン作戦ミニッツ)も実施

◎開催日時の情報はボランティアメーリングリストやFacebook、Twitterなどでお知らせします。

大学生が地域の力に!

地域ボランティア活動に参加しましょう!

ボランティアセンターでは、キャンパス周辺地域でのボランティア活動を推進しています。地域のおまつりや市民活動等のイベントスタッフ、老人ホームでの演奏会など、大学生の力で一緒に地域を盛り上げませんか？

◎ボランティア情報は、メーリングリスト、掲示板などでお知らせします。

地域ボランティアの一例

4月	ひの煉瓦ホール チャリティコンサートボランティア
5月	「ひの新選組まつり」当日イベントスタッフ
6月	みんなの遊・友ランドボランティア
8月	日野療護園 花火大会ボランティア
10月	日野療護園 ふれあい秋まつりボランティア
	日野市 みんなといっしょの運動会 準備、競技補助ボランティア
	日野市少年学級 運動会ボランティア
	日野市民フェアスタッフ
	夢ふうせんバザーボランティア